

保護者の皆様へ

学生なんでも相談室

室長 鈴木英一郎

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的拡大の影響を受け、本学では異例の対応で今年度を迎えることになりました。学生一人一人にとっても、おそらく様々な困難に直面していることと考えております。また、特に、下宿をしておられるお子さんや新入生のお子さんをお持ちの保護者の方におかれましては、そのご心配たるやお察しするに余りあります。

本学でも、このような状況を鑑み、新入生のための電話やメールによる相談窓口を学部ごとに設けるなど、その心理的なケアについても通常以上に対応を進めているところではございますが、中にはそのような窓口で連絡をすることさえも遠慮しているような方もおられるのではないかと心配しております。

実際、本当に何か困っていることがあったとしても、なかなか自分からヘルプを出せないお子さんは大勢おられることと思います。そこには「こんなことで人に迷惑をかけてはいけない」「こんな程度のことを人に話すのは恥ずかしい」など、若者に特有の心性が働いている背景もあるでしょう。



そこで、例えば、お子さんが下宿をしておられるようでしたら、様子をうかがうようなお電話などをしてあげていただくと良いのではないのでしょうか。先述のとおり、大学生くらいになると、恥ずかしくてなかなか自分から保護者の方に対して連絡を取るようなことはできなくなるものですが、その一方で、連絡をもらえると嬉しかったりするものです。もちろん、鬱陶しいと感じるようなお子さんの中にはおられるかとは思いますが、それでも、互いに少しやり取りができたという事実はそこで共有できるかと思えます。「便りが無いのは元気な証拠」という言葉もございますが、誰とも接触することのできないこの状況の中で、本当は下宿で一人で寂しい思いをしているにもかかわらず、「寂しい」というメッセージすら周りにうまく発信できずにいるのだとしたら、保護者の皆様にとっても、とても

お辛いことと存じます。逆に、それで元気であることを確認できたら少し安心することもできるでしょう。よって、“空振り”に終わることや鬱陶しがられることも想定しつつも、ぜひ保護者の皆様の方から連絡を取っていただき、生の声でやりとりをしていただけると良いかと存じます。

もちろん、ご自宅におられるお子さんにとっても、お友だち等の人的ネットワークから分断され、寂しい思いをされている方がおられるかもしれません。お子様にそんな様子が感じられるようであれば、よろしければ、いつもより少しだけ多めに言葉がけをいただくなどの工夫をしていただくと良いかと存じます。

また、その過程の中で、お子さんのご様子にいつもと違う雰囲気を感じられたり、不安を感じられたりするようなことがありましたら、よろしければ当相談室までご相談ください。昨今の事情から、相談室での現在の対応は、電話、メール、オンライン（テレビ電話）のいずれかの形にはなっていますが、お子さんへの対応に関する相談や、お子さんと直接に相談させていただくことなども含めて、何かお力になることができればと考えております。



いつになったらこの事態が収束するのか、まだ先は見えませんが、今この瞬間もお子さんにとっては大事な学生生活の一部に他なりません。本学では引き続き、できるだけのリソースを用いながらお子さんの学生生活をサポートしていきたいと存じます。保護者の皆様におかれましては、ぜひご理解をいただき、お子さんを見守っていただけましたら幸いです。